

「フィルム文化を存続させる会」 御中

平成 19 年 1 月 10 日
富士フィルム株式会社
お客様コミュニケーションセンター
センター長 藤井 秀夫

回 答 書

拝啓、時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は、弊社製品をご愛顧いただき誠に有難うございます。

2006 年 12 月 7 日付けにていただきました、要望書におけるご質問につきまして、弊社社長直轄部門でありませ、お客様コミュニケーションセンター藤井より、下記の通り回答させていただきます。

1. 弊社での決定事項

皆様からいただいたご要望・ご質問にお答えする前に、「シングル8」製品に関して、この度弊社にて決定した内容につきましてご報告申し上げます。

- (1) 皆様からいただきましたご要望を真摯に検討させていただきました結果、シングル8フィルムにつきましては、新たな設備投資はかかりますが、販売中止を当面の間延期させていただくことに致しました。今回の延期にあたり、需要の変化と経年変化による品質保証の問題から、販売継続期間は断言しかねます。現時点の見通しでは R25N タイプで約5年、RT200N タイプで約3年程度は継続可能とみています。その後は、需要動向を見て検討させていただきたいと考えております。
- (2) 同じくシングル8フィルムの現像も、当面の間サービス中止を延期させていただきます。
- (3) 今回の販売及び現像を継続するにあたり、老朽化した設備の補修・更新ための設備投資が必要となります。つきましては、誠に遺憾ながらその一部を回収させていただくために、シングル8フィルムを値上げさせていただきます。値上げ額は、メーカー希望小売価格で R25 タイプ+300 円、RT200 タイプ+370 円を考えております。現像料に関しましては、現時点での値上げは考えておりません。

2. ご要望事項に関する回答 … 上記、決定事項を前提にお答えします。

- (1) シングル8フィルムの継続、新規・代替商品の開発、シングル8技術の譲渡や継承の検討について
シングル8フィルムの販売継続につきましては、上記の通りです。シングル8(以下 S-8)の技術の譲渡・継承につきましては、一環したフィルム製造技術は当社独自の極秘技術が含まれている上、大規模な敷地と設備、生産にともなった環境が必要となり、安易に譲渡・継承は難しいと考えております。新規・代替製品の開発は、既に VTR が主流となり、映画フィルムでも 35mm、16mmが主流となっている中、現在の S-8をベースとした新規製品開発は需要の観点からも難しいと思われま。しかしながら、S-8フォーマットのオープン化は検討することはできると考えております。
- (2) シングル8フィルムの販売・現像サービスの5年間継続について
S-8フィルムの販売・現像の継続は上記の通りです。しかし、RT200 タイプは経年変化の影響から3年が目処と考えております。しかしながら、継続年数は現在の需要を前提としておりますので、需要の変化によっては期間の短縮・延長もありえると思われま。

(3) サービスを継続する期間のフィルム価格・現像価格の据え置きについて

今回の販売・現像継続にあたり、老朽化した設備の保守・改修にかなりの追加投資が必要となります。その一部を回収させていただくため、誠に遺憾ながらフィルム価格を値上げせざるを得ない状況に至りました。しかし、今回の値上げにより、最盛期の 1000 分の 1 の需要量となった S-8 事業全体が大幅に改善されるものではありません。その点を何卒、ご理解の程お願い申し上げます。

(4) シングル 8 のサービスについてのユーザー、教育関係機関、関連企業への周知徹底について

今回の販売終了延期につきましては、弊社ホームページ、ご販売店へのご案内、現像戻りへのご連絡書面封入等によって、周知徹底を図ってまいります。

S-8 システム全体の販売促進という意味での告知でしたら、誠に残念ながら、カメラ販売が終了して既に 20 年以上が経ち、カメラの無い状況で代替システムが主流となっている中、S-8 の新規ユーザーの獲得は非常に難しいと考えております。

3. ご質問事項に関する回答

(1) リバーサルフィルムでの代替の可能性

現時点で、リバーサルフィルムでの S-8 フィルムの代替は品質保証面から難しい状況です。しかし、S-8 販売中止延期後の需要動向を見て、同方法で製造を検討することは可能と考えています。

(2) 映画撮影用ネガフィルムでの代替の可能性

S-8 フィルムは、元々ポジ(リバーサル)フィルムで、撮影・現像してそのまま映写できる利便性と映画の原点を学べる仕組みという意味で重要であるとお聞きしています。ネガフィルムを代替品とした場合、その利便性が失われるばかりか、映写用に 8mm のポジフィルムにプリントする必要があると思われます。物理的には映画用ネガフィルムを S-8 代替フィルムとして作ることは可能かもしれませんが、S-8 の存在意義が失われ、(1) のリバーサルフィルムを代替品として検討する方がメリット及び可能性があると考えます。

(3) 新しい規格の 8 ミリフィルム、カメラを研究・開発する可能性

本来、S-8 システムは一般のユーザーが簡単・気楽にムービー撮影ができることが基本コンセプトで生まれたシステムです。VTR 等の進歩により一般ユーザーの殆どすべてが代替手段に移行され、デジタル VTR システムが日々進歩していく中、残念ながら新規規格の 8 ミリフィルム・カメラを開発しても、開発及び製作経費を回収できる必要があるとは思えません。

(4) S-8 フィルムの加工について、現在より小型の機械を調達し続けていく可能性

先にご報告しましたが、S-8 の加工設備は特注で製造されたもので、一環システムとなっています。この度の中止延期は、同設備を改修・保全してあらためて生産を行う予定で、新たな小型の加工設備を特注で作ることは上記方法より遥かにコストアップとなります。皆様へのご負担をできるだけ軽減するためにも現行設備に追加投資して生産した方が良いと判断致しました。

(5) 現状の S-8 現像設備よりも、小さなミニラボを運営していく可能性

フィルムの生産・加工設備と同様、S-8 の現像設備も特注で、現像薬品も通常のリバーサルとは異なる特注の薬品を使用しています。現行の S-8 フィルムを適正に現像するには、現行設備を補修し、現行の処理薬品を使うのがコスト面・品質面でもベストと考えております。将来的にリバーサルを代替品として使用するケースとなった場合は、小規模の現像機を改造して使用する可能性もあると思います。

(6) S-8 フィルムの製造・現像業務を他企業や団体へ委託・譲渡・継承していく可能性

基本的な考えは、上記2-(1)の通りで、特にフィルム製造設備は簡単に委託・譲渡は難しいと考えます。しかし、加工工程以降は、将来的に譲渡することは不可能ではないと思います。

しかし、当社設備は大量生産を前提にした設備でかつ老朽化が進んでおり、その更新または新規設備投資には莫大な費用がかかると思われます。また、現像設備も同様のことが言えます。その上、譲渡した以上、当社は加工・現像に関しての品質保証はできません。それだけの莫大な設備投資と品質保証リスクを負える企業やスポンサーを皆様で見つけれ、継続的な運営が可能でしたら、当社としてフィルムの原反を供給することは可能ではないかと考えます。

(7) S-8 カメラ及び映写機等の技術提供を、他企業や団体に行う可能性

ご存知の通り、当社S-8 カメラや映写機は 20 年前に生産を中止しており、修理・パーツ供給義務も終わっていると考えております。残念ながら、当時のカメラ及び映写機の技術担当は既に退職しており、技術提供を検討できる人材がいないのが実態です。また、仮に技術的なご支援ができたとしても、製品の金型等は残っておらず、パーツの製造からまったく新しい製品を製造することになると思います。

以上が、この度の当社の決定事項であり、皆様からいただいたご要望及びご質問に対する回答です。

今回のS-8フィルムの販売及び現像中止延期の決定に至ったのは、皆様方の弊社S-8 継続に対する強い想いを真摯に受け止め検討させていただいた結果です。しかし、残念ながら今回値上げをさせていただいても、弊社として本事業が大幅に改善される状況ではない事をご理解願います。

また、上記決定は弊社が現在S-8ユーザー皆様のご愛顧にお答えできる最大限の感謝の姿勢であり、一企業である弊社が現在できる限界であることも合わせてご理解いただければ幸いです。

今後とも、富士フィルム製品のご愛顧の程、宜しくお願い申し上げます。

以上